

# 令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月11日  
札幌市立白石小学校

## 1 本年度の重点目標

**強く 正しく 素直にのびる白石の子どもの育成**

～自立（個の成長）と共生（集団の成長）をめざして～

## 2 本年度の経営方針

「3つのたい」をめざして

- 保護者・地域にとって 「通わせたい！信頼できる学校」
- 子どもにとって 「学びたい！楽しい学校」
- 職員にとって 「働きたい！充実感をもてる学校」

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

### (1) 『学びづくり』 <分かる・できる・楽しい授業づくり>

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学 ぶ 力 の 育 成	【主体的な学び】 自分の目標をもち、難しい事でも挑戦したり、やり遂げようとしたりする。	B	様々な教育活動について、カリキュラムマネジメントを意識しながら再構成し、本校の「よさ」、子どもたち一人一人が成長を実感できるよう体系化し、具体実施していく。	B	A
	【協働的な学び】 自分の意見を進んで発信し、進んで話し合っ解決しようとする。	B	問題解決的な学習スタイルを意識した授業づくりを行うとともに、友達や学級の仲間との協働的な学習を通じて、多面的な物事の見方、思考を育てていく。	A	A
	【個別最適な学び・ICT】 自分で学習・解決方法を考えたり、端末をつかって自分なりに学習したりしようとする。	B	「白石スタイル」を継続し、全校的な学習環境の共通化とともに、児童の各種学習データを分析し、学習支援に生かしていく。 加えて、デジタル等も活用しながら、家庭での学習の習慣化を促し、基礎学力の向上に繋げていく。	A	A
	【学び続ける人間性】 振り返りを通して、自分の成長を感じたり、次に生かそうとしたりする。	B	外部の人材積極活用も進め、普段の学習では得られない知識や経験に触れる機会を増やしていくことで、「生きる力」「日常の生活に应用する力」の育成を図る。	A	A
学校関係者評価委員 による意見	結果だけではなく、学習等の取組の過程において、その伸長の評価を行い、児童また教職員の意欲化、取組への自信につなげていくとよい。				

(2) 『生活づくり』 <豊かな心を育てる>

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな心の育成	【自己肯定感・相互承認】 自分のことを正しく知り、友達のよいところを見付けようとする。	B	学校生活における活動や取組について、児童が振り返り、自己評価を行う機会を設定し、自らの育ちを認識し、次の行動に繋げていくために内省する時間を保障していく。	A	A
	【自己有用感】 友達や学級、学校の役に立とうとし、自分が必要とされていると感じる。	B	学級での係・当番活動や委員会活動の中で、満足感・充実感を得られるような声掛け、活動内容を常に考える。	B	A
	【自他の尊重】 進んで挨拶したり、様々なきまりを守ろうとしたりする。	B	学級活動部、児童活動部を中心に、日常的な声掛け、指導を十分に行っていく。 各取組の事前・事後の指導の徹底、全教員による学級・学年を超えた指導をしっかり行っていく。	A	B
	【多様性の尊重】 意見や立場の違う人とも話し合おうとし、個性や考えを受容・尊重しようとする。	B	学級活動、児童会活動全般において、自治的な取組への計画実施を促していく。また、異学年で交流する場を設定していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	豊かな人間関係の構築が、児童個々の自己肯定感、自尊心に繋がる。そのためにも、コミュニケーション能力の育成していく手立てや機会をつくっていくとよい。				

(3) 『体づくり』 <命と安全、健康への意識>

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
健やかな体の育成	【運動への意欲】 運動を好み、進んで体を動かそうとする。	A	児童が積極的に体を動かすことのできる機会や場をより保障していくとともに、児童が自らの健康について考え、工夫しながら運動（遊び）に取り組む意識を高めていく。	A	A
	【健康・安全な過ごし方】 自分の心身の調子を考え、食や生活習慣など、健康・安全に気を付けて過ごそうとする。	B	各月で生活目標を設定した指導や毎朝の挨拶運動等を継続するとともに、更に充実させていく。職員室・担任・学年で情報を共有し、気になる児童の保護者との対話を大切にしていく。	A	A
	【危機管理】 災害や不審者、Jアラートなど、緊急時に自他の安全を守る行動をしようとする。	A	全教職員による子どもたちの見守りを大切にしていく。 地域、関係機関と連携を密にしながら、交通指導など児童の安全の確保に努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見	学校外でも元気に遊んだり、挨拶をしてくれたりする姿が多く見られる。引き続き、児童の体力・健康増進の取組を続けていくとよい。				

#### (4) 児童の悩みやいじめに対する取組

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
【いじめ防止等の取組】 いじめの未然防止や早期発見に向け、保護者・地域等と連携しながら組織的に丁寧に取り組んでいる。	A	日常の児童の見取りに加え、アンケートの定期実施やアプリの活用により、児童の心身の実態把握に努める。 また、道徳や学級活動等において、「いじめ」に対する意識や正しい認識を育てる機会を充実させる。	A	A
学校関係者評価委員による意見	(豊かな心の育成とも関連し、) コミュニケーション力の向上も含めた、児童相互の関係づくりを図るとともに、その補填としてICTの活用を一層進めていくとよい。			

#### (5) 3つのたいを目指して

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
(保護者・地域にとって) 子どもを通わせたい！信頼できる学校になっているか？	B	12月実施のアンケートによると、多くの保護者から学校の教育活動に対する肯定的な回答が多くあった。一方、他校種、地域等と協力関係、情報共有が十分ではない声が多かったため、コミュニティスクールの推進も含め、連携、情報発信をより積極的に行っていく。	A	A
(児童にとって) 学びたい！楽しい白石小学校となっているか？	B	12月実施のアンケートによると、多く児童から学校生活に対する肯定的な回答があった。しかし、例年に比較すると、児童の自己肯定感、効力感を測る指標に低下が見られるので、児童がより達成感等を得られるような取組、手立てを充実させていく。	A	A
(職員にとって) 働きたい！充実感をもてる学校となっているか？	B	教職員評価では、基本的には職場環境に対して肯定的に捉えているが、多様な児童への対応、また、学校運営上のリソースの不足により多忙感を訴える声があるので、教職員の働き方改革、業務改善を進めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と保護者、地域が意見交流できる場や機会を増やしていくとよい。</li> <li>・教職員の心身の健康保持のための環境づくりを進めていくとよい。</li> </ul>			